

【内容変更】

諸般の事情により、第2回及び第4回の内容が入れ替わり、下記の通り変更となりました。

2015年度・神戸女学院大学女性学インスティテュート・連続セミナー

「はたらくこと・そだてること」

<p>第1回</p> <p>5月22日(金)</p> <p>14:00~15:30</p>	<p>男性から見た「ワークライフバランス」：日本と他国男性の意識調査から分かったこと 文学部 英文学科 准教授 奥村 キャサリン</p> <p>女性の社会進出と共にメディアに取り上げられてきた男性の家庭・育児の負担の増加。共働き夫婦が増える中で女性側のニーズや問題意識はしばしば紹介されますが男性側の視点を取り上げられる機会はあまりありません。従来の男女の役割が変わりつつある現在、男性にも混乱は少なくないはず。ワークライフバランスの現状について日本人と外国人男性の意見を集めた結果を紹介します。</p>
<p>第2回</p> <p>5月29日(金)</p> <p>14:00~15:30</p>	<p>理系女子の生きやすさ、生きにくさ（「理系女子の生きやすさ、生きづらさ」から変更になりました） 人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 教授 高岡 素子</p> <p>理系を学ぶ女性は「リケジョ（＝理系女子）」という愛称で呼ばれています。最先端医療に携わる研究者や宇宙飛行士など第一線でバリバリ活躍する女性の姿が報道される機会も少なくありません。ただし現在においても理系研究者における女性の割合はかなり低いです。そして結婚、子育てしている理系女子はさらに少数派です。理系女子にしかわからない「生きやすさ・生きづらさ」について、現状を分析しながら考察してみます。</p>
<p>第3回</p> <p>6月5日(金)</p> <p>14:00~15:30</p>	<p>子供のことばを育てること一言語習得の調査から分かった親のできることは？ 文学部 英文学科 教授 松尾 歩</p> <p>子どもの言語発達に遅れがみられた場合、「母親が読み聞かせを十分に行っていない」とか、「母親が仕事をして子どもを保育園に預けているから」などと仕事をする母親が責められる場面が見受けられることがあります。この講義では子どもが両親やメディアから受けとる言語のインプットが子どもの言語発達に与える影響について紹介します。また、どんな言語教育が子どもの言語発達に最適なのか、などについても言語習得で行われている実験や調査結果をふまえて考察します。</p>
<p>第4回</p> <p>6月12日(金)</p> <p>14:00~15:30</p>	<p>インド農村議会の女性議員の子育てと仕事－マイクロファイナンス・留保制度・政治意識 文学部 総合文化学科 准教授 北川 将之</p> <p>近年インドの農村では、女性の地方議員が増えています。その背景には、貧困層の女性グループに少額の融資を行うマイクロファイナンスの取り組みや、村議会における女性議員の留保制度など、女性を取り巻く環境の変化があります。今回は、地域の人的ネットワークの力を活かして、自営のビジネスや保育園の事業を展開している村の女性議員の話などを紹介しながら、インド社会における女性の「はたらくこと・そだてること」を考えます。</p>

受講資格	一般成人・学生 *原則全4回出席できること
受講料	無料
申し込み	事前申し込み不要



【会場】

神戸女学院大学 ジュリア・タットレー記念館
104教室(JD-104)

【交通機関】

阪急「門戸厄神」駅下車、西へ徒歩約15分
マイカーでのご来場はご遠慮ください。
タクシーでお越しになる場合は、
「西門」をご利用ください。

キャンパス内は全面禁煙となっております。
あらかじめご了承ください。

TEL : 0798-51-8545 FAX : 0798-51-8527 e-mail : wsi-o@mail.kobe-c.ac.jp

〒662-8505 西宮市岡田山4-1 [JD館3F] URL <http://www.kobe-c.ac.jp/gender/>

【問合せ先】神戸女学院大学 女性学インスティテュート